

# Chapter 1 .PEG

## 4.4 地域連携・パス

高崎総合医療センター 外科  
小川哲史

## レクチャーの内容

1. 「地域連携、パス」テキストのレクチャー
2. 前橋市における地域連携への取り組み  
ー前橋栄養療法ネットワークの活動ー

## レクチャーの内容

1. 「地域連携、パス」テキストのレクチャー
2. 前橋市における地域連携への取り組み  
ー前橋栄養療法ネットワークの活動ー

## 4.4 地域連携・パス

- 地域連携の必要性
  - 胃瘻ケアのための連携
  - 胃瘻カテーテル交換のための連携
  - 栄養管理のための連携
  - 摂食・嚥下に関する連携
- 連携のために必要なこと

# 地域連携の必要性①

## 胃瘻をめぐる課題

- 造設は主に急性期病院で行い、その後の管理は療養病院、介護施設、在宅で行うということが多い。
- 胃瘻はあくまでも栄養管理の一つのツールである。

## 地域連携の必要性②

- 造設医にとってはPEGを造って終わりでも、胃瘻患者や家族にとっては造設後から長期間にわたる胃瘻ライフが始まる。
- 胃瘻ライフを継続的に支えていく体制ができていなければ、胃瘻は患者や家族にとって苦痛や負担をもたらす。



- 胃瘻管理や栄養管理における、患者中心のシームレスな地域の連携体制を構築する。

## 4.4 地域連携・パス

- 地域連携の必要性
  - 胃瘻ケアのための連携
  - 胃瘻カテーテル交換のための連携
  - 栄養管理のための連携
  - 摂食・嚥下に関する連携
- 連携のために必要なこと

# 胃瘻ケアのための連携

- 胃瘻の患者は、日常的に様々なケアが必要である。
- 急性期病院では専門的な知識や技術を持つ医師や看護師、栄養士などが揃っている。
- 患者を受け取る側の施設、在宅では、十分な知識や技術を持つスタッフが少ない。



- 専門的なスタッフが多い病院が、講習会やPDNセミナーなどを定期的に行う。
- 地域全体に知識や技術を正確に伝えることが重要である。



## 4.4 地域連携・パス

- 地域連携の必要性
  - 胃瘻ケアのための連携
  - 胃瘻カテーテル交換のための連携
  - 栄養管理のための連携
  - 摂食・嚥下に関する連携
- 連携のために必要なこと

# 胃瘻カテーテル交換のための連携①

- ・ カテーテル交換は胃瘻患者にとって大きな負担である。
- ・ 安全な交換ができないと重篤な合併症をおこす。
- ・ 施設や在宅で管理している多くの医師が、交換は「リスク」だと感じている。
- ・ 退院後の情報提供書に交換方法の記載がなく、患者や家族も知らないことが多い。



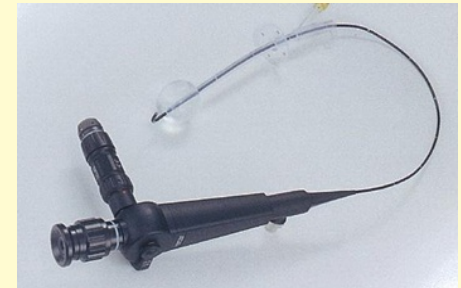
- ・ 地域で、交換申し込みの窓口や連絡方法を定める必要がある。

## 胃瘻カテーテル交換のための連携②

- ・ 施設や在宅での交換で、造影や内視鏡検査による確認は困難である。
- ・ 胃瘻カテーテル交換用の胃内視鏡検査機器（経胃瘻カテーテル内視鏡）の購入は、施設や開業医にとって負担が多い。



- ・ 地域医師への交換技術のサポートや、地域で交換用の内視鏡検査機器の貸し出しシステムを作る。



## 4.4 地域連携・パス

- 地域連携の必要性
  - 胃瘻ケアのための連携
  - 胃瘻カテーテル交換のための連携
  - 栄養管理のための連携
  - 摂食・嚥下に関する連携
- 連携のために必要なこと

# 栄養管理のための連携

- 胃瘻は栄養管理のための一つのツールである。
- 胃瘻造設時と、施設や在宅時には必要エネルギー量が変化する。
- リハビリテーションの程度により、必要エネルギー量や水分量を調節する必要がある。
- 栄養剤注入による合併症の予防、介護者の負担などを考慮し、栄養剤の変更や半固形化も必要となる。



- 栄養管理においても病院のNSTスタッフとの連携が必要である。

## 4.4 地域連携・パス

- 地域連携の必要性
  - 胃瘻ケアのための連携
  - 胃瘻カテーテル交換のための連携
  - 栄養管理のための連携
  - 摂食・嚥下に関する連携
- 連携のために必要なこと

# 摂食・嚥下に関する連携

- ・ 胃瘻は急性期に造設され、造設後早期に施設や在宅に移ることが多い。
- ・ 入院中、急性期に摂食・嚥下機能検査では、食事摂取は不能と判断されることが多い。
- ・ しかし、その後に経口摂取が回復したり、お楽しみ程度に食事摂取が可能となることがある。



- ・ 胃瘻造設後も、摂食・嚥下の検査や訓練を継続的に行い、経口摂取の可能性を探ることが大切である。

## 4.4 地域連携・パス

- 地域連携の必要性
  - 胃瘻ケアのための連携
  - 胃瘻カテーテル交換のための連携
  - 栄養管理のための連携
  - 摂食・嚥下に関する連携
- 連携のために必要なこと



# 連携のために必要なこと①

- 地域内の医療・介護・福祉スタッフとの連携が重要である。
- 退院後の患者の環境や栄養管理方法、また介護者の年齢や技能に合わせたPEGキットの選択を、造設前から話し合うことが必要である。
- 胃瘻造設前に退院後のスタッフとの連携会議、または退院前カンファレンスを行うことで、スムーズな連携関係の構築が可能となる。

## 連携のために必要なこと②

- ・ 退院後に胃瘻患者に関わる全てのスタッフが、胃瘻や療養状況に関して話し合いを行うことで、早期の対処などが可能となる。
- ・ 退院時にはPEGキットの種類、交換時期、交換場所などだけでなく、キットや栄養剤の選択理由や、困った時の相談窓口なども連絡票に記載する。

## 連携のために必要なこと③

- ・ 胃瘻の地域連携パスの活用も増えているが、パスはあくまでもツールである。
- ・ 顔と顔の見える連携システムの構築のため、急性期病院が中心となってPDNセミナーなどを開催し、一緒にフランクに話し合える環境作りが大切である。